

VIII—2 血液培養採取方法

1 概要

- (1) 血液培養は敗血症や菌血症が疑われる場合に行われ、全身性・局所性の診断に必須の検査である。
- (2) 動脈・静脈による結果の差はないため、確実に採取できる部位を選択する。
- (3) 確実な診断をするために、同じタイミングで採血部位を変えて2セット採取することが望ましい。

培養ボトルの種類



結核 小児 嫌気 好気



嫌気 好気 で1セット

2 採取時期

- (1) 敗血症や菌血症が疑われる場合や不明熱の場合
- (2) 悪寒発熱、38℃以上の発熱及び白血球増加が認められる場合
- (3) 36℃以下の低体温や、好中球減少の場合
- (4) 高齢者で熱がないかまたは微熱で、筋痛や関節痛が認められる場合や脳梗塞を合併している場合
- (5) 抗生剤投与前
- (6) 投与中に採取する場合は一次中止（1～3日）後、あるいは次回抗生剤投与前（血液中の抗菌薬濃度が最も低い時期）

3 必要物品（写真1）

- ・血液培養ボトル
- ・アルコール綿
- ・ポピドンヨード（スワブスティック[®]）
- ・清潔手袋（滅菌でも可）
- ・20ml シリンジ
- ・駆血帯
- ・絆創膏
- ・携帯型針廃棄



写真1

4 採取

- (1) マスクを着用する。
- (2) 手指衛生を行う。(写真2)
- (3) 手袋を着用する。
- (4) 血液培養ボトルのキャップをとり、検体刺入部をアルコール綿で消毒する。(写真3)



写真2



写真3

- (5) アルコール綿で採血部位の皮脂を除去し血管を確認した後、ポピドンヨードで採血部位から外側に向かって円心を描くように消毒（1～2回）し乾燥させる。(写真4、5)
- (6) ポピドンヨードは、禁忌の患者及び乳幼児には使用せず、アルコール綿で2回消毒する。その後採血部位には触らない



写真4



写真5

- (7) 10～20ml 採血する。(写真6)
- (8) 駆血帯をはずし、アルコール綿が採血針にふれないように針を抜き止血する。
- (9) 出血が考えられる場合は滅菌ガーゼを使用して採血部位の止血をする。



写真6

- ※ 血液培養ボトルへの分注は嫌気→好気で行う。(写真7)
- ※ ボトルに分注する前の、針交換は必要ない。採血後のシリンジの受け渡しはしない。

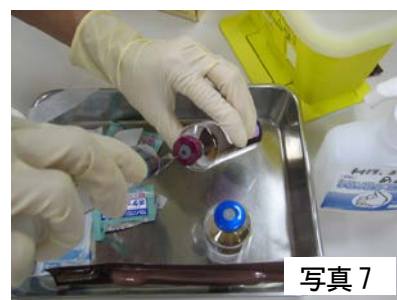


写真7

- (10) 採取した血液培養ボトルは室温放置せず、すぐに検査科に提出し検査科スタッフに手渡す。